

全国建設発生リサイクル協会（JASRA）東京都千代田区・赤坂泰子理事長の主催による第3回「土サミット」が21日、災害と土をテーマに都内のホテルで開かれた。土に携わる各業界団体や企業、行政など全国から約180人が参加し、それぞれの垣根を越えて、土の現状と未来を考えた。学生によ

ノス・ハイスクールに指定
されている多賀城高校災害
科学科によるアース展示会など、
これからについて考え
る内容が特色となつた。
赤坂理事長は開会に当た
り「土の現状とこれからを
考え、その情報を発信する
ことを目的としている。災
害時の土の取り扱いと課題
を紹介する。有意義な時間

い」。佐藤直良先端建設技術センター理事長は、土を資源として見ていく時代になつたことを説明し、「サミットの成果が明らかになると期待する」と話した。JASRAビジョンは、2050年を見据えた長期計画として、同協会が本年度にまとめ、今回のサミットで発表した。内容は、建

別講演から始まり、宮城県農村防災対策室の佐山雅技術補佐が「災害復旧・興事業における建設発生の活用事例」、東京都の当課長が「土砂災害の廃棄物処理の対応」、国土交通省の藤平大富土砂防事務長が「富士山と災害と土について紹介した。

「災害と土」テーマに――未来を考える

によるパネル

ディスカッションも行われた。サミットは午前10時から約7時間にわたり、5つのプログラムで構成された。同協会が策定した「JAS RAビジョン2050」を発表し、学識者を交えたパネルディスカッションで土の未来について討論したほか、大学生によるワークショップやスーザー・サイエン



赤坂理事長

向かって取り組みや第一次5
か年計画を決めている。
今回のテーマである「災
害と土」については、勝見
武京都大学大学院教授の特

が参加して東京都建設発生
土再利用センター（東京都江東区）と成友興業の城南島第二工場（東京都大田区）を見学している。

を過ぐ」としてほし」といふ
さつした。来賓の佐藤寿延
国土交通省技術審議官は
「建設発生土の取り組みを
公共と民間が一体となつて
進めていくことが必要であ

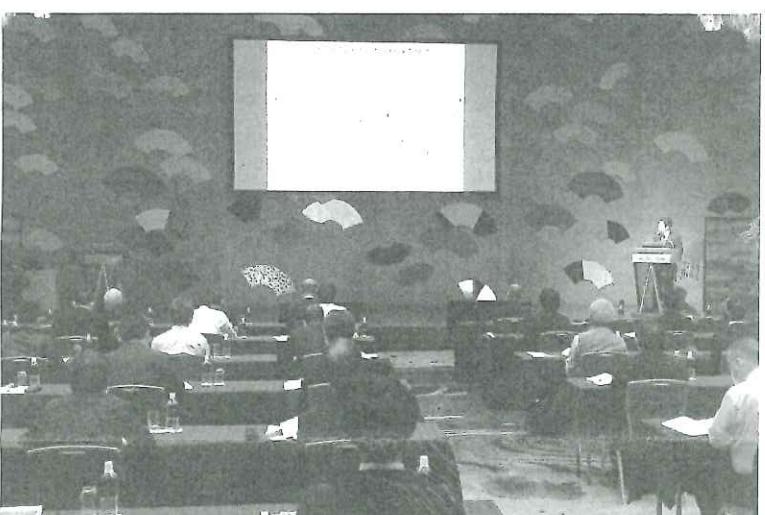
設施生土リサイクルのあるべき姿を提示するとともに、2050年までに「質を重視した魅力ある建設生土リサイクル業の確立を目指す」ことを目標に定めてい

先端建設技術センターが建設発生工の施策について講演し、東京都が建設発生工への取り組みを紹介した。なお、20日には、前回の参加者から要望の多かつた

土サミット 開催

全国建設発生土
リサイクル協会

団体や企業、行政などが垣根を越えて建設発生土の未来を話し合った「土サミット」



土サミットは、土に携わる各業界団体や企業をはじめ、国・自治体、学識者、専門家らが集まり、垣根を越えた情報交換の場として、2年前から開催されている。注目を集めている。

静岡県熱海市で発生した大規模な土石流災害を教訓に、法整備や省令改正がなされ、土に関する状況が大きく変化していることが